

## 3. 下顎小白歯の異所性埋伏について

Cases of ectopically impacted mandibular premolar

○笹村 祐杜, 小川 淳, 高橋 徳明\*,  
吉田 結実子\*, 古城 慎太郎, 宮本 郁也,  
山谷 元気, 藤原 尚樹\*\*, 藤村 朗\*\*\*,  
山田 浩之

岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野, 岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野\*, 岩手医科大学解剖学講座機能形態学分野\*\*, 岩手医科大学口腔医学講座歯科医学教育学分野\*\*\*

【目的】: 今回我々は, 下顎小白歯が異所性埋伏をきたした4症例を経験したので, その詳細を文献的考察を含め報告した.

【症例の概要】: 当院で過去3年間にパノラマエックス線写真と歯科用コーンビームCTを撮影された症例において, 成人の異所性埋伏状態の下顎小白歯は4症例であった. 症例の概要としては, 33歳から64歳の男性3例, 女性1例, 右側が1例, 左側が3例であった. すべての症例が水平埋伏状態で, 約1歯以上の移動量を有し, 移動方向として近心が1例, 遠心が3例であった.

【考察】: 下顎小白歯の異所性埋伏に関する報告はまれである. 移動量の大きい下顎小白歯の異所性埋伏は, 歯導帯の彎曲に伴い正常な萌出経路が失われることで生じる可能性が示唆されている.

## 4. Digital Light Processing方式の3Dプリンタで製作した作業模型の精度

Accuracy of definitive casts manufactured by Digital Light Processing 3D printer

○柳澤 基\*, 小山田 勇太郎\*, 田邊 憲昌\*,  
鬼原 英道\*, 小林 琢也\*\*, 近藤 尚知\*

岩手医科大学補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野\*, 岩手医科大学補綴・インプラント学講座摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野\*\*

目的: 本研究の目的は, Digital Light Processing (DLP)方式の3Dプリンタと光学印象用インプラントアナログを用いて製作した作業模型の精度を検証することである.

材料・方法: 上顎無歯顎模型と5本のインプラントアナログおよびボールアバットメントのスキャンデータを用いて, ボールアバットメントを右側第一大臼歯(A), 右側犬歯(B), 右側中切歯(C), 左側犬歯(D), 左側第一大臼歯(E)部に配置した基準模型のCADデータ(CADref)を作成した. 次に, インプラントアナログ挿入用の穴を付与したCADデータ(CADhole)を作成した. 3Dプリンタを用いて, CADrefとCADholeから模型を10個ずつ造形し, それぞれを3DPref, 3DPholeとした. 3DPholeにはインプラントアナログとボールアバットメントを装着した. 3DPrefと3Dpholeを造形後0日目~14日目に, 工業用スキャナを用いてスキャンした. ボールアバットメントのボール部分の中心点を計測基準点として, CADrefと3DPrefおよび3DPhole上のAB間, AC間, AD間, およびAE間の距離をCADソフトウェア上で計測し, 比較した.

結果: アバットメント間距離に関して, CADrefと比較すると, 3DPrefではAB間距離とAE間距離が有意に大きい値であった(AB間: +0.020mm, AE間: +0.029mm). 一方, 3DPholeではAE間距離が有意に大きかった(AE間: +0.072mm). 模型製作0日目から14日目まででは, 3DPholeのアバットメント間距離に有意な経時的変化は生じなかった.

考察: 3DPrefと3DPholeを比較すると,